



富士山登山にも挑戦し、充実した留学生生活を送ったアデさん

Vol.5

環境保全で 持続可能な社会に貢献したい

iptou アデ リアン ワルテリカ(インドネシア出身)

工学部機械工学科(2022年卒業)

2022年10月より株式会社ユニバンス・エンジニア 勤務

子どもの頃、父に星座を教えてもらったことがきっかけで宇宙に憧れ、宇宙エレベーターなど最先端の宇宙の研究を推進している静岡大学に留学を決めました。在学中は、環境工学の授業で環境に役立つ研究に興味を持ち、「海水中に浮遊したマイクロプラスチックを泡で浮かせることにより回収を容易にする研究」に励みました。

また、東南アジアセミナーに参加

して、日本の技能実習制度をはじめ、各国の移住制度を比較して議論するなど、様々な国の学生と活発に交流しました。多様な文化への理解を深めることで、グローバルな思考力を身に付けることができました。

現在は自動車部品の設計に携わっています。将来は、日本とインドネシアの古くからの環境保全と現代技術を融合させ、持続可能な社会に直接貢献できる起業に挑戦したいです。



お祈りの供え物「チャナン」



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様への感謝を込めて、活動をご報告します。



静岡大学では、持続可能な社会の実現を目指し、社会課題に多面的・戦略的にアプローチしています。今回は、日本一の茶どころである静岡ならではの取り組みをご紹介します。



作物の生産性と持続可能性のトレードオフを探る ～SDGsな茶栽培を目指して～

農学部応用生命科学科 山下寛人 助教

公的機関の試験茶園や生産者が独自に管理する有機栽培茶園を中心に、様々な土壌や管理体系から、作物の生育・品質、土壌の化学成分、微生物プロファイルなどのビッグデータを取得・解析することで、茶園の「ありのままの姿」を可視化することに挑戦しています。

茶は永年生樹木であるため、高品質な新芽を収穫するためには樹体や土壌の状態管理が必須ですが、未だその管理は生産者の経験や熟練の技術に依存しています。

日本に伝統的な茶生産技術を持続可能な農法として維持していくためにも、伝統農法や篤農家が有する茶園土壌管理のノウハウを市民参加型で見える化し、次世代に継承可能な技術として確立する基盤づくりを行っています。



分析用にお茶をサンプリング



様々な土壌検体のデータを分析しています

静岡大学未来創成基金寄附者芳名一覧

教育・研究・社会連携を推進する財政基盤を強化するため、平成24年度に創設した基金です。

ご寄附をいただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

〔個人〕	相羽 英雄 様 有川 寛 様 岩原 滋利 様 小粥 市郎 様 陰山 明典 様 木村 真也 様 近藤 康幸 様 鈴木 志郎 様 竹内 章一郎 様 寺崎 玲香 様 中村 靖彦 様 服部 忠信 様 藤井 裕子 様 本多 和司 様 松島 弘美 様 水野 康 様 山城 宏之 様 葉 哲正 様 渡辺 猛 様	青島 明日香 様 池野谷 浩由 様 牛田 貴博 様 岡田 次弘 様 柏瀬 祥一 様 木村 芳明 様 柴田 ひさ 様 鈴木 秀明 様 竹内 精一 様 中井 茂 様 中安 清夫 様 原 恵三 様 藤田 裕光 様 前田 和敬 様 松本 悠生 様 望月 章吾 様 山城 良真 様 横手 裕治 様	青島 大太郎 様 磯部 宅司 様 内方 正巳 様 岡本 充司 様 片橋 靖 様 金原 茂美 様 柴山 泉 様 鈴木 博 様 竹本 智郁子 様 中澤 一治 様 名波 則路 様 平木 大輔 様 藤田 茉奈 様 前田 洋一 様 松山 雅哉 様 元持 一男 様 山田 耕史 様 吉岡 一志 様	赤堀 修一 様 井出 あゆみ 様 浦谷 裕子 様 奥山 恵理子 様 加茂 比呂夫 様 久野 勉 様 朱 明威 様 高角 俊夫 様 龍山 智榮 様 中村 捷二 様 名波 誠致 様 平子 文代 様 古橋 衛 様 松浦 勝 様 三重野 哲 様 森下 義明 様 山本 一馬 様 吉田 裕也 様	渥美 雅之 様 伊藤 誠一 様 江口 辰彦 様 尾崎 勝也 様 菊池 直 様 小山 和紀 様 杉山 一統 様 高野 泰 様 田中 良憲 様 中村 徹 様 野中 大史 様 平野 孝雄 様 細田 徹 様 松岡 薫 様 三垣 文彦 様 森田 和光 様 山本 憲 様 吉山 憲昭 様	新井 葉子 様 伊東 孝之 様 榎本 隆一 様 尾張 正樹 様 北澤 良智 様 小山 芳明 様 杉山 祐介 様 高橋 憲司 様 塚田 智隆 様 中村 弘 様 蓮池 康彦 様 藤井 俊公 様 堀 雅博 様 松下 寿美子 様 水谷 忠仁 様 山下 智司 様 山本 正行 様 ライオン 優子 様
------	--	--	---	---	--	---

(以上 五十音順)

〔法人等〕	国本工業株式会社 様 浜松工業会北九州支部 様 浜松工業会湘南支部 様	株式会社アイ電子工業 様 株式会社ベルソニカ 様 NSKワナー株式会社 様	浜松工業会沼津支部 様 静岡大学教職員同窓会 様 白井国際産業株式会社 様	三菱電機株式会社 様 日本中央競馬会 様 附属浜松中学校46回卒業生一同 様
-------	---	---	---	--

※ご芳名は、原則令和5年2月1日から令和5年7月31日までの間にご寄附いただき、公開についてご承諾いただきました方について掲載しております。なお一部、クレジット等含めご入金日より、前回掲載分に間に合わなかった方々もあわせて掲載しております。

※大学へご寄附いただいた方への感謝の意の表明として、広報誌「SUCCESS」へ芳名を掲載してきましたが、今号で掲載を終了させていただきます。今後は、静岡大学未来創成基金ウェブサイトに掲載いたします。詳しくは、右記QRコードよりご確認ください。



未来創成基金
ウェブサイト
寄附者のご芳名

ウクライナ協定校学生の受入れ支援のお願い

ロシア軍のウクライナ侵攻に伴い、学業や研究活動を継続することが困難な大学生および大学院生を交換留学生として受入れ生活支援を行うことで、学業や研究を継続できる環境を提供します。



ウクライナで1年ほど日本語を勉強していたため、日本に馴染みがあったOlehさん

学生からの
感謝の声

静岡大学では主に日本語を学び、写真部に所属し活動したり、日本語と英語を学ぶために国際交流ラウンジのイベントにも参加しています。現在は浜松市に住んでいますが、穏やかで住みやすいです。ご支援いただきありがとうございます。感謝しています。この支援なしに私は日本に来ることはできませんでした。一刻も早くこの侵攻が終わり、平和が訪れることを望みます。

情報学部 3年 Oleh Statkevych さん
(National Technical University of Ukraine
"Igor Sikorsky Kyiv Polytechnic Institute")

支援
内容

本学と大学間交流協定を締結している2つの大学(タラス・シェフチェンコ・キーウ国立大学及びウクライナ国立技術大学)に在籍する学生を、交換留学プログラムにより受入れ、渡航費、生活費等を支援します。受入れ数は各大学2名まで(協定学生数)を予定しています。授業料は協定により免除となるため、渡航費、生活費等を本基金により支援します。

寄
附
方
法

- ・インターネットからお申込みの場合
未来創成基金ウェブサイトより、「大学運営全般」をご選択のうえお申込みください。
- ・ゆうちょ銀行、郵便局、三井住友銀行窓口からお申込みの場合
払込取扱票の「寄附目的」「大学運営全般」をご選択ください。お手元に払込取扱票がない場合は、お手数ですが、静岡大学 広報・基金課基金係までお問い合わせください。

今後とも温かいご支援をお願いいたします

未来創成基金へのご寄附は、郵便振替やインターネットからのお申込み(クレジットカード・コンビニ決済等)をご利用いただけます。くわしくはウェブサイトをご覧ください。

静岡大学未来創成基金ウェブサイト

<https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp/>

静岡大学広報・基金課 基金係 / 電話:054-238-5183 E-mail:kikin@adb.shizuoka.ac.jp

